

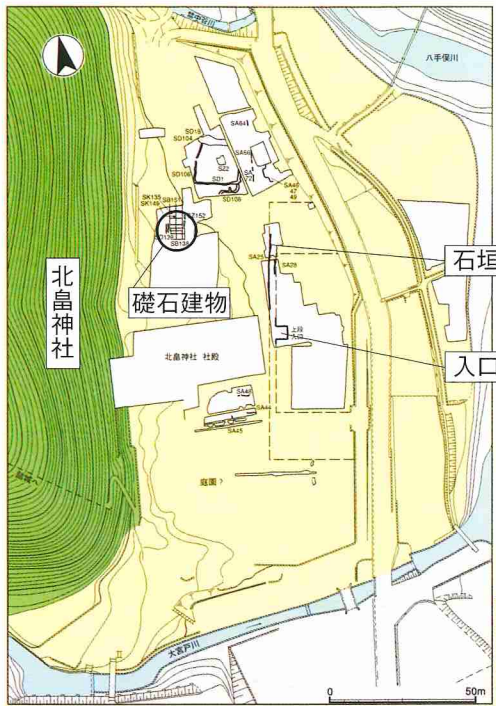
北畠氏館跡ガイド

北畠氏館跡

北畠氏館跡は多気盆地のほぼ中央にあり、北畠神社境内を中心とする南北約200m、東西約100mの範囲です。西を山裾、それ以外の三方を川に挟まれた場所にあたり、背後の尾根上には詰城跡、さらに奥の山上には霧山城跡があります。

北畠氏館跡は、16世紀の初め頃に大造成が行われ、これを境に前期・後期に分けられます。前期の主な建物や石垣は方位を揃えて造られています。後期には現在とほぼ同じ地形となり、館跡南部にある庭園はこの頃に造られました。

大造成や庭園の造られたのは、北畠氏が南伊勢各地へ支配を広げて戦国大名へと飛躍する頃にあたり、北畠氏の勢力を象徴する一大事業であったのでしょう。



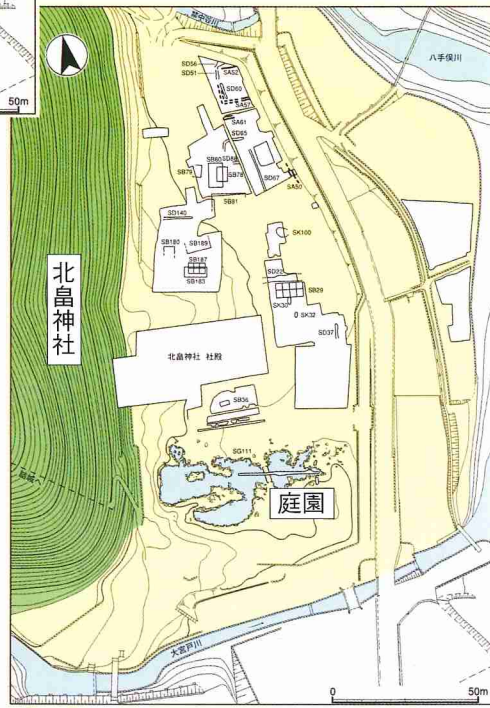
前期の遺構(15世紀)



上空から見た北畠氏館跡



北畠氏館跡庭園



後期の遺構(16世紀)

北畠氏関連年表

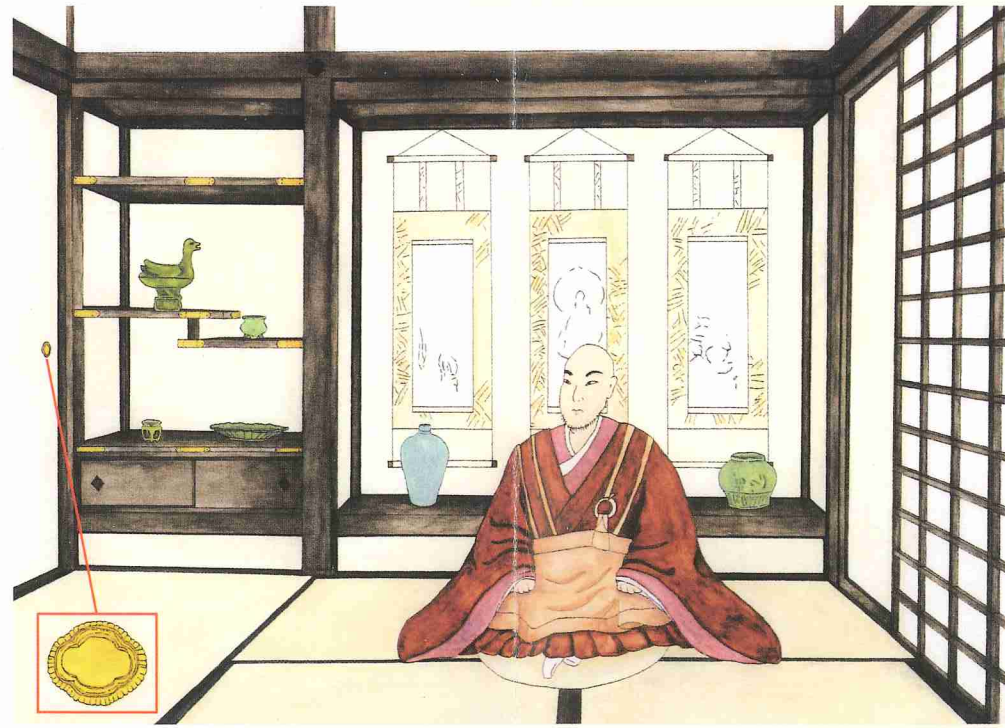
西暦	年号	国司家	北畠氏の歴史
1336	延元元 建武3	顕能	北畠親房、伊勢入国。田丸城を拠点とする。 『本間文書』・『光明寺文書』
1342	康永元		田丸城落城。(『波多野貞夫氏所蔵文書』)
1392	明德3		南北朝合一
1403	応永10	顕泰	北畠関連としての「多気」の史料上の初見。(『醍醐枝葉抄』)
1414	応永22	満雅	北畠満雅、幕府に対して挙兵。幕府軍の勝利に終わり、 多気まで攻め込まれるが、満雅は幕府と和議。(『満濟准后日記』)
1428	正長元		後龜山天皇の孫小倉宮、伊勢国に出奔。「国司在所多気」の奥、 「興津」に入る。(『満濟准后日記』)
1428	正長元	顕雅	満雅再び挙兵。(『満濟准后日記』) 12月に戦死する。(『師郷記』等)
1430	永享2	教具	満雅の弟顕雅、満濟、赤松満祐の仲介により將軍足利義教と対面。 (『満濟准后日記』)
1441	嘉吉元		教具、叔父顕雅より家督を継ぐ。(『満濟准后日記』「建内記」) 赤松満祐、將軍足利義教を殺害(嘉吉の乱)。赤松氏滅亡、 満祐の子教康は伊勢国司を頼るが、これを置わず、誅殺する。 (『建内記』)
1453	享徳2	政郷政勝 (逸方)	本格的な神三郡支配に乗り出す。(『氏経卿引付』)
1467	応仁元		応仁の乱。將軍足利義政の弟義視、応仁の乱時に伊勢に下向、 小倭の常光寺で国司教具と対面。(『応仁記』)
1471	文明3		北畠政勝、父教具の死去により家督を継ぐ。(『内宮引付』 『大乘院寺社雑事記』など)
1478	文明11	具方材親	伊勢守護罷免。(『大乘院寺社雑事記』)
1479	文明12		北伊勢で長野氏と合戦するが、大敗。(『大乘院寺社雑事記』 『氏経神事記』)
1489	長享3		北畠具方、材親に改名。(『歴名土代』)
1497	明応6	具方材親	木造政宗が北畠帥茂(具方の異母弟)と結び反乱。 (『大乘院寺社雑事記』『大乘院日記目録』)
1499	明応8		北畠氏の多気館ごとごとく焼失する。(『大乘院寺社雑事記』)
1500	明応9	晴具	多気館再建。(『大乘院寺社雑事記』)
1504	永正元		幕府・朝廷の調停で木造政宗と和議。(『宣胤卿記』)
1517	永正14	具教	父具方の死により国司家を継ぐ。『浄眼寺文書』
1539	天文6		この頃具教家督を継ぐ。この頃領域を拡大するが、永禄に入り、 領域内志摩、宇陀での軍事的緊張高まる。(『澤氏古文書』など) 天文14年ごろまでは晴具が実権を握る。
1562	永禄5	具房	この頃北畠具房家督を継ぐ。(『浄眼寺文書』)ただし大御所具教 との二元政権。
1569	永禄12		織田信長南伊勢に侵攻、天花寺城・阿坂城・大河内城にて北畠具教 と戦う。信長の次男茶筌丸(北畠具豊、信雄)を北畠氏の養子とし、 和睦。(『信長公記』『多聞院日記』)
1576	天正4		具教、信長により殺害され、北畠氏滅亡。多気も滅亡か。 (『公卿補任』『勢州軍記』など)



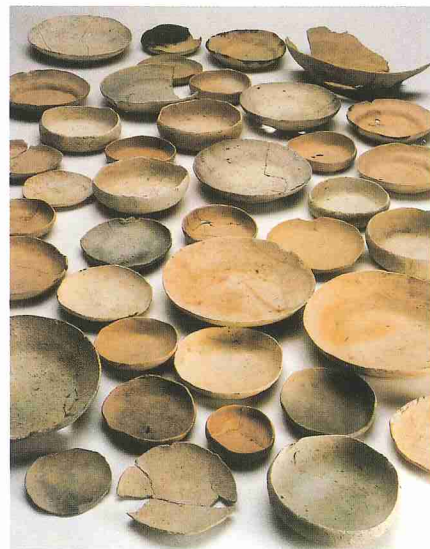
館跡の性格

北畠氏館跡は、大きく二つの性格を兼ね備えていました。一つは北畠氏という組織体の中枢という公的施設、もう一つには北畠家という当主の住まいとしての私的な空間があります。

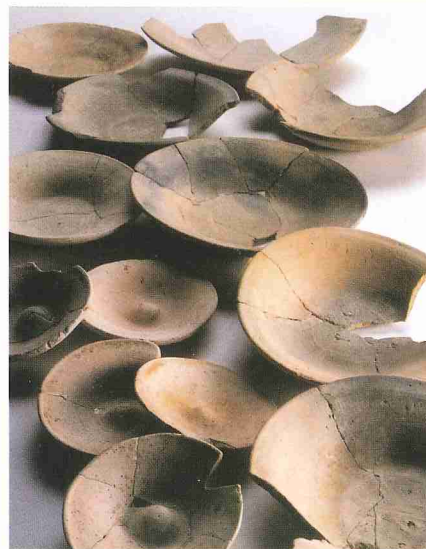
庭園は接客の場であり公的な性格の強い施設であり、石垣も防御よりも館跡上段をより立派に見せるものなのでしょう。



北畠氏館跡にある一室の想像復元図



地元産のかわらけ



京都系のかわらけ

華麗な調度品と備品

引手金具は、館跡庭園のすぐ北側で出土したもので、襖の引き戸の把手と考えられます。華麗な作りです。

公家のイメージの強い北畠氏ですが、甲冑の一部である小札は武家であることを雄弁に物語ります。北畠氏館跡では北部で集中的に見つかります。



金銅装引手金具



小札 (甲冑の一部)

かわらけ

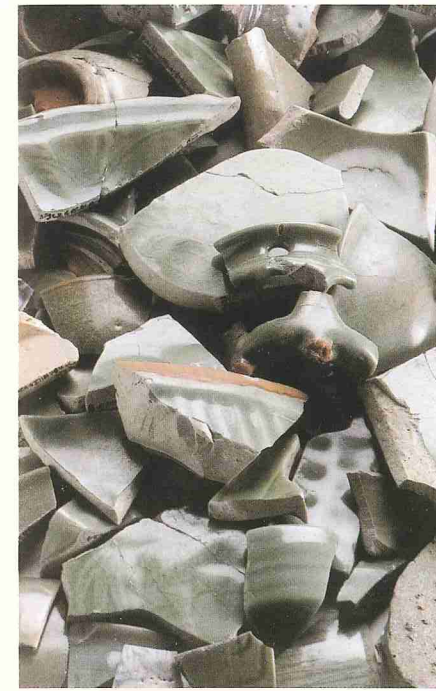
北畠氏館跡で出土する土器の大半は、かわらけと呼ばれる素焼きの皿です。集中して大量に出土するかわらけは饗宴の跡に捨てられたと言われてます。

地元産の他に京都系のものがあります。これは、当時の都である京都の文化の流入を示すもので、三重県内で京都系が一定量出土するのは、この多気だけです。

貿易陶磁

北畠氏館跡では、中国産の青磁・白磁などが多数出土しています。これらを持つことは、相当な経済力があつたことが分かります。

中でも館跡出土とされる青磁水鳥形香合は大変貴重なものです。これらは器台、酒海壺などとともに威信財と言われるもので、使用者の富や権威を表すものです。



貿易陶磁類



青磁水鳥形香合



犬形土製品



カエデ墨書

祈りの風景

北畠氏館跡では、犬形土製品が比較的多く出土しています。これは小さな犬形をした焼き物で、用途ははっきりしませんが、安産多産など犬に関する信仰かも知れません。

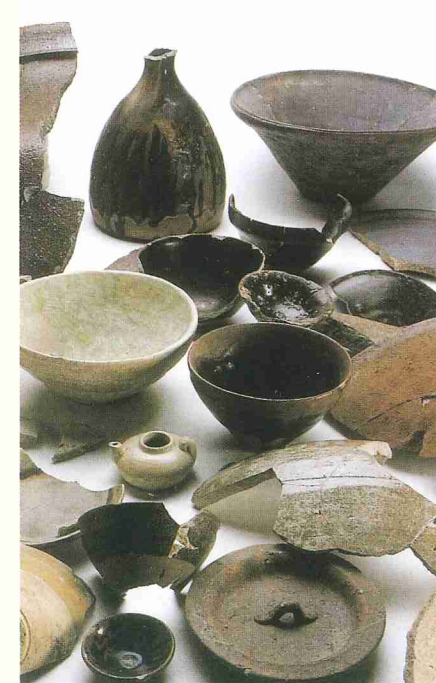
皿の裏に墨で絵が書かれたものがあり、秋の風景のカエデが描かれたものは江戸時代に地鎮に使用されていた例があります。

この他かわらけが複数重なったものは土地に対する安全祈願であったようです。

各地の土器

北畠氏館跡では、国産の陶器も多く出土しています。最も多いのは瀬戸美濃（愛知県・岐阜県）産のもので、次いで常滑（愛知県）産のものがあります。

珍しいものとして、備前（岡山県）産もあります。北畠氏が東西両方へのつながりがあつたことによるものでしょう。この他、大和系（奈良県）の瓦質土器からは大和国宇陀郡に勢力を伸ばした実態が伺えます。



瀬戸美濃産・常滑産陶器



信楽産・備前産陶器など